【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成27年4月30日(2015.4.30)

【公表番号】特表2013-523389(P2013-523389A)
【公表日】平成25年6月17日(2013.6.17)
【年通号数】公開・登録公報2013-031
【出願番号】特願2013-504939(P2013-504939)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｂ　53/06　(2015.01)
Ａ６３Ｂ　53/04　(2015.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｂ　53/06　Ｃ
Ａ６３Ｂ　53/04　Ｅ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成27年3月10日(2015.3.10)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３５】
図5aおよび図5bに示すように、ゴルフクラブ10はウェイト部材20、または本発明の例示的態様のウェイト要素20を含む。ウェイト要素20は、以下でさらに詳細に説明するようにスロット48内に嵌合されるように概して寸法決めされる重質量ウェイト「チップ」の形態でありうる。ウェイト要素20は概してまっすぐな上縁60および丸縁62を有し、これらは概してまっすぐな底縁64まで延びる。ウェイト要素20は、概して平面状の表面である第一の表面または表側表面66、および第二の表面または裏側表面68をさらに有する。ウェイト要素20の第一の表面66および第二の表面68は、スロット48の幅Wに概して対応するかまたはそれよりもわずかに小さいウェイト要素20の薄く狭い幅を画定するように間隔が空けられる。同様に、ウェイト要素20の長さはスロット48の長さLに概して対応するかまたはそれよりもわずかに小さい。したがって、図5a～図6bから認識できるように、ウェイト要素20はスロット48と概して協調的に寸法決めされる。スロット48およびウェイト要素20が他の協調的に寸法決めされた形状を取りうると理解されよう。以下でさらに詳細に説明するように、ウェイト要素20は少なくとも1つの開口部70を有し、開口部はウェイト要素20を貫いて位置決めされ、ウェイト要素20の取り外されるウェイト部分を画定する。特定の例示的態様において、一対の開口部70が含まれる。以下でさらに詳細に説明するように、開口部70の場所はウェイト要素20、したがってゴルフクラブヘッド14の重心全体に影響するように設定される。同様に、開口部70のサイズも重量などを制御するように変動しうる。ウェイト要素20は、第一の表面66を貫いて位置決めされるねじ込み開口72をさらに有する。例示的態様において、ねじ込み開口72は完全にウェイト要素20を貫いて延びることはないが、必要に応じて、開口72はそれを完全に貫いて延びてもよい。さらに、ねじ込み開口72が省略されうると理解されよう。同様に、必要に応じて、開口部70はウェイト要素20内に部分的にのみ延びるように構成されうる。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】

【００３７】
図5a～図7bは、本発明のゴルフクラブヘッド14の形成を示し、ウェイト要素20はゴルフクラブヘッドボディ18に操作可能に接続されているかまたは他のやり方で固定されている。図6aに示すように、スロット48の第一の端部50が後方開口40と連通する際に、ウェイト要素20は後方開口40を通ってスロット48に挿入される。ウェイト要素20の高さおよび後方開口40の高さ（ならびに後壁32の高さ）、ならびにスロット48の幅Wが、ウェイト要素20を操作してスロット48内に摺動させるために十分なクリアランスが設けられるように寸法決めされると理解されよう。論じたように、ウェイト要素20はスロット48の形状に概して対応するように寸法決めされ、ウェイト要素20はスロット48を実質的に満たす。したがって、ウェイト要素20の丸縁62および底縁64は、スロット48の丸縁58および第二の端部52に概して対応し、それらと結合する。図5bおよび図6bにさらに示すように、ウェイト要素20の高さは、ウェイト要素20の上部分が後方開口40の下縁44を通過して延びるように寸法決めされる。したがって、上部分がゴルフクラブヘッド14の後面32から後方開口40内に見える。この特定の例示的態様において、開口部70はウェイト要素20の上部分の直近に位置決めされる。したがって、開口部70は上縁42と下縁44との間に位置決めされる。図6bにさらに示すように、裏側表面68は打球面28の内面54に対向する。例示的態様において、裏側表面68は内面54と面対面係合している。同様に、第一の表側表面66は後面32の内面54に対向している。表側表面66は後面32の内面54と面対面係合していてもそうでなくてもよい。論じたように、ウェイト要素20はスロット48と協調的に寸法決めされる。協調的に寸法決めされた構成は、ウェイト要素20が概して締まり嵌めによってスロット48内に嵌合されるものでありうる。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３８】
図6bにさらに示すように、ウェイト要素20のねじ込み開口72が後面32のねじ込み開口47に位置合わせされている。ファスナ80が後面32内のねじ込み開口47を通ってウェイト要素20のねじ込み開口72内に設けられかつ挿入され、ウェイト要素がスロット48内に固定される。そのような構成において、ウェイト要素20の第二の表面68は打球面28の内面54に面対面係合している。小さな間隙がウェイト要素の第一の表面66と後面32の内面56との間に存在しうる。そのような構成において、ウェイト要素20は、ウェイト要素20を打球面28の内面54に押し当てる力F（図6b）に供される。例示的態様において、加えられる力Fは打球面28の内面54に概して直角または概して垂直である。したがって、ウェイト要素20は打球面28の内面54に押し当てられる。力Fが打球面28の内面54に直角または垂直であることから変動しうるように、ねじ込み開口47、72を変更することができると理解されよう。たとえば、力Fは、概して直角な力Fの周りの90度にわたる方向に加えられうる。別の例示的態様において、力Fは、ウェイト部材をスロット48の下部分内にさらに押し込むように、ボディ18のソール部分30に向かう角度で加えられるように構成されうる。ウェイト要素20を打球面28の内面54に押し当てることでクラブ10の感触全体を改善することができる。また、ウェイト要素20上のねじ込み開口72が省略可能であり、ファスナ80がウェイト要素20の表側表面66のみに係合すると理解されよう。ウェイト要素20およびスロット48が、別個のファスナ80を使用しない締まり嵌めによって接続されるように構成されうると理解されよう。例示的態様において、締まり嵌めは、ウェイト要素20を打球面28の内面54に押し当てるように構成される。さらに、ウェイト要素20を別の方向に押し当てることができる。